

サブスクとは、音楽配信サービスでCDをかけて音楽を聴くといった従来の方法とは異なる、独自の仕組みを持ったサービスです。視聴できる曲数は1億曲と膨大です。今後益々増え、新曲はCD発売と同時にアップロードされており、曲の売れ行きも、CD販売枚数ではなく、サブスクの再生回数で評価されるようになっていきます。

再生方式はストリーミングが一般的です。従来、サブスクは携帯電話やスマホのイヤホンで聴くことが一般的で、音質はMP3、AAC(320 kbps)などの非可逆圧縮音源(コーデック)が主体で、ヘッドホンやスピーカーで聴くには物足りないものでした。

2021年にAmazon musicとApple musicが可逆コーデック(FLAC,ALAC)によるCD以上の情報量の音源サービスを始めました。これによりサブスクでのCDかそれ以上の音源で視聴が可能になりました。

<音楽の情報量>

非可逆コーデック MP3、AAC(320kbps) < **CD=可逆コーデック** (44.1KHz/16bit) < **ハイレゾ可逆コーデック** (MAX192KHz/24bit)

視聴するには①サービスに加入することと、WEB上からストリーミングするので、②スマホやパソコン(Wi-Fi)と③DACが必要になります。サービスへの加入は、iPhoneはApple Store、AndroidはGoogle Storeよりソフトをダウンロードします。

PCの場合は、Apple MusicやAmazon MusicのWEBサイトよりソフトをダウンロードします。

ほとんどのサービスが月極の料金ですが、年払いもあり月極料金に対して2割ほど安くなります。

どのサービスも1,000円/月程度です。

現在のところApple MusicとAmazon Music HD以外のサービスは非可逆コーデックなので、今回は省略します。

PCやスマホとDACの接続はUSB接続します。DACは数千円から百万円以上する製品と、価格帯が桁違いの差があります。

オーディオの世界は高価格で重いものが評価される傾向があります。各メーカーがこだわりを持って開発しており良いのですが、余りにも高価格ですとハイエンドマニアの世界となり、なかなか手が出ません。

今回は中華製DACの中で、マニアの評判が良い価格が数万円代のDACを、サブスクの入門として視聴して頂きます。DACの重要なICはDACチップです。

オーディオ用のチップはバーブラン、ESS、旭化成、ロームなどが生産しています。

これらのチップはハイエンドDACに採用されていますが、同じものが中華製DACにも採用されています。

視聴した感じでは、DACの音はDACチップのメーカーによる所が大きい感じられました。

【視聴DAC】

ifi ZENDAC チップ:バーブラン、(TI)

SMSL D300 チップ:ローム

SMSL D400EX チップ:旭化成×2

メディア	サンプリング周波数	ビット数
CD	44.1KHz	16bit
DVD(サラウンド)	96KHz	24bit
DVD(ステレオ)	192KHz	24bit
SACD	96KHz	24bit
サブスク	44.1~192kHz	16~24bit

まとめとして、サブスクの音がCD並みに良くなっています。厳密に言うとCDの非圧縮コーデックに対して可逆コーデック、ストリーミング再生などで、音がCDより劣るとの意見もありますが、1ヶ月千円程度の料金で1億曲が視聴できることは大きなメリットになります。従って、サブスクは音源として一つの選択肢になり得ると思います。

【使用アンプ】

プリアンプ :サンオーディオ SVC-200改 メインアンプ :WE339A PPトランスドライブ
(初段WE310A ドライブ段WE339A)